

中学校区におけるめざす子ども像  
失敗を恐れずに自分で考えて決断できる子

令和7年度 重点目標  
子どもがつくる学校「みんなのとみなみ」  
・子どもが選ぶ・決める場面の創造 ・互いに尊重し、認め合い、助け合う学校

確かな学びの現状  
確かな学び  
○探究的な学びにおける課題設定研究をすすめる  
年間を通じての研究授業の実施と日々の授業改善。  
自己の学びを「選択する」「決める」場面の設定。

「豊かな心・健やかな体」の現状  
○子どもが主体的に学校を良くしていこうとする  
子ども主体の特別活動「とみ活」の推進。  
○互いに尊重し、認め合い、助け合える仲間づくりの推進  
学年ごとに年間を通したなかまづくりの取り組みの実施。  
○健康的な生活習慣の確立  
年3回実施する生活調べを通して自身の生活習慣を見直す。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	“こたわられる”学びに子ども	探究的な学びにおける研究をすすめる。	●年間を通じて、学年ごとに授業研究に取り組み、授業改善について学ぶ。	授業改善に向けて、ワークショップ型討議会を活用し学んだことを実践する。校内研修の実施、外部講師を招待しての研修会の実施。	研究授業や研修会の実施	通年	◎ 【授業改善】 学校目標に照らして、各学年が「自己決定」場面を取り入れた授業を構想し、実践している。また、討議では忌憚のない意見交流ができています。	◎ 【授業改善】 全職員で授業研究を公開することで、全職員が授業改善に向けて取り組むことができた。	◎ ・地域の行事で児童が発言する様子からも、主体的な学びやマイチャレによって子どもたちが自ら自己決定し、表現する力が身に付いてきているように感じる。
		子ども一人ひとりが自身の興味や課題に基づいた家庭学習をすすめる力の育成。	●自己の学びを「選択する」「決める」学習場面を設定する。	自己決定に関するアンケートの肯定率で評価。	学校アンケート(児童用・教員用)	11月ごろ	◎ 【自己決定】 学び方を自分で決める。学ぶ内容を自分で決める、これらの経験から、子どもたちは学びを自分事としてとらえられている。	◎ アンケートによると、子どもたちが「知りたい」「あきらめない」「学習が役に立つ」と思っている児童が昨年度末の結果よりも急増した。ほとんどの項目において肯定率が90%を超えていて、これは、子どもたちが学びを自分事とし、主体的に学びに取り組んでいる教員側の実感と一致する。	◎ ・ICTの活用は今後必要なスキルとなってくるので、継続して活用機会を設定してほしい。
		児童用端末を学習に活用とスキルの習得。	●年7回「マイチャレ週間」を設定し、家庭学習の内容を児童一人ひとりが決める。またマイチャレ交流会を実施し、友だちの学びを知ることで、自身の学びに対する「見方」「考え方」を広げる。	マイチャレに関するアンケートの肯定率で評価。	Formsアンケート	11月ごろ	○ 【マイチャレ】 低学年は手探りながらも、学校全体では自分を見つめる良い機会となり、主体的に取り組む児童も多くみられる。	○ 【マイチャレ】 80%以上の児童が、マイチャレについて肯定的にとらえている。また「もっとやりたい」と思っている児童も多くいることから、家庭学習に対してより前向きにとらえられる児童が多いことがわかる。	○ 【マイチャレ】 一方で、教員内のICTスキルの差を小さくする研修等の実施、児童のネットリテラシーの向上に努めてほしい。
豊かな心・健やかな体	主体的に自己決定・協働できる子 体や心に関心を 持つ子	子どもが主体的に学校を良くしていこうとする。	●子ども主体の特別活動「とみ活」の推進。	とみ活での活動を振り返るアンケートを児童に実施。	生徒指導アンケート	毎学期	○ 【とみ活】 子どもたちの主体性に関する全項目で全児童の90%以上が肯定的評価。	○ 【とみ活】 昨年度に引き続き、年間を通して、児童の自己決定・自己選択をテーマに全校で学校創りに取り組み、子どもたちの主体性に関する全項目でも年間を通したアンケートで全児童の90%以上が肯定的評価だった。来年度も活動内容を精査しながら改善・推進していきたい。	◎ ・とみ活に関して、地域での行事の様子を見ていると、主体的に取り組んでいると感じる。
		児童へのいじめ防止に関わる啓発活動と実態調査の実施。	道徳をはじめとする教科授業や特別活動の「集団活動」を通し、仲間づくりを進めると共に、生活アンケートでいじめの実態調査を行う。	・仲間づくりの実践報告 ・生活アンケート(年3回)での報告。	生活アンケート	毎学期	○ 【人権】 1学期2学期ともに、全ての項目で85%以上が肯定的評価。	○ 【人権】 児童アンケートの全ての項目で85%以上が肯定的評価。特に「みんな仲良く協力し合っている」の項目が昨年度より上がった。教職員アンケートで「仲間づくりへの取り組み」に対して全員が肯定的評価だった。各学年や各クラスなど様々な所で仲間づくりに取り組んだことを引き続き継続したい。	○ ・児童の主体性を育むとともに、他人を大切に人の考え方を尊重する力も育む取り組みも進めてほしい。
		互いに尊重し、認め合い、助け合える仲間づくりの推進。	●学年ごとに仲間づくりの取り組みを進める。	仲間づくりに関する肯定率で評価。	人権アンケート	毎学期	○	○	◎
地域協働	信頼される学校	自己の生活習慣を見直し、改善する。	●自分の1週間の生活習慣を振り返り、課題を発見し、その課題を改善する週間を設定する。	学校アンケートの肯定的評価80%以上がA、60%以上がB	学校アンケート(児童)	11月ごろ	○ 【生活調べ・改善習慣】 自分の生活を振り返り、改善習慣を設けることで、見直すきっかけとなっている。	○ 【生活調べ・改善習慣】 児童アンケート「生活習慣をふり返り、改善しようとした」が85%以上の肯定であった。合わせて教室でも児童の生活習慣改善の啓発を行った結果と言える。	◎ 日々の生活課題を自ら設定し、たくましく、自らの生活を改めることができる児童を育ててほしい。
		地域全体との連携を進め、地域協働による子どもの育成を図る。	自治会・PTA・子ども会と協働した取り組みを行うことで、地域との連携を深める。	学校アンケートの肯定的評価80%以上がA、60%以上がB	学校アンケート(教職員用)	11月ごろ	◎ 日々ホームページにて教育活動を積極的に公開している。地域の方、PTAと協働し地域行事も実施している。	◎ ・5年生の総合の学習ではこの地域ではどのような防災の取り組みをしているのかを地域の方を招いて学習した。	◎ 今年度は地域の方々をお招きして体験活動をたくさん取り組んできたが、来年度も地域の子どものために、協働しては学校を応援していきたい。
		学校通信、HP等で学校の教育活動について地域に公開する。	★中学校区で「夏季研修会」「授業公開」を実施する。グランドデザインの作成、学校群の組織を編成し具体的な取り組みについて検討する。	学校アンケートの肯定的評価80%以上がA、60%以上がB 本年度中にグランドデザインの作成と学校群の組織編制が完了する。	学校アンケート(教職員用) 学校通信、HPの記録 学校群の学校間で協議	11月ごろ 年度末	○ 来年度から学校群として登美丘中学校区で協力できることを4校合同の夏季研修で検討したり、登美丘中学校とお互いの授業見学を実施したりした。	○ ・来年度に向けて中学校区で目指す子ども像について「グランドデザイン」の作成と組織編制について検討した。 ○ ・学校アンケートにおける「HP等で学校の教育活動について地域に公開する」の項目について肯定率は77%だった。	○

校長より(年度末)  
今年度も、探究的な学びについて研究を進めるとともに、子どもを主語に教育活動を構想し、「子どもが選択する・決める」場面を意図的・計画的に取り入れてきた。子どもの主体性を育むとともに、多様性を認め合う温かい集団づくりに取り組むことで、子どもたちが生き生きと活動する場面が多く見られた。来年度も、「子どもが自ら学びを進める授業」や子どもの自己決定を支援する伴走者としての教師の在り方について引き続き研究を進め、すべての登美丘南小学校の子どもが、毎日来てよかったと思える、優しさや温かさがあふれる学校づくりをしていきたい。

学校関係者評価者から(年度末)  
学校の教育目標、子どもがつくる学校「みんなのとみなみ」を継続して取り組みを進めてほしい。自己決定できる児童を育てていく一方で、時に人に合わせる協働する大切さやなかまづくりも並行して取り組むを進めてほしい。また公教育としてICTの活用がクラスによって差が出ないようICT研修を進めるとともに、児童のネットリテラシーの向上にも努めてほしい。